

傷病レベル的確に判定

磐田市は1日夜、災害時初期診療講習会を同市国府台の市総合健康福祉会館 i プラザで開いた。市内の医師や看護師、市職員ら約100人が参加し、負傷者を傷病のレベルで分けるトリアージを学んだ。

2016年の熊本地震など、実際の災害現場で活動した経験を持つ浜松医科大学(浜松市東区)救急災害医学担当や磐田市立総合病院の災害派遣医療チーム(DMAT)が講師を務めた。

患者役と救護役に分かれた参加者は、講師の指導を受けながら、患者役の意識や自発呼吸の有無などを確認し、傷病レベルを判定した。災害発生時の行動についても学び、自分の安全確保を最優先することなどを確認した。

医療関係者ら有事備え



医療関係者らが参加した災害時初期診療講習会
＝磐田市国府台の市総合健康福祉会館 i プラザ

磐田でトリアージ講習会

講習に参加した同市福田の看護師伊藤貴夫さん(46)は「責任は重大。有事に備え、繰り返し訓練していくしかない」と話した。

(磐田支局・駒木千尋)